

持続可能な社会・経済・生活を支える 社会資本の潜在的役割・効果に関する研究

～はかる化・見える化する技術を確立して、社会資本の真の姿を皆がわかるようにする～

研究期間
2013(H25)→2015(H27)

プロジェクトリーダー：総合技術政策研究センター長
担当研究部・センター：総合技術政策研究センター

研究の背景と方針

社会資本が国民生活をどのように支えてきたかがよく見えず、実感できない

公共事業費の大幅な減少は、災害に強い国土保全のための社会資本の整備・管理に支障をきたすことが想定されます。しかしながらこれまで、社会資本が国民生活をどのように支えてきたのかについては、必ずしも十分に検証されてこなかったため、公共事業は不要という論調も見受けられます。

一方で東日本大震災時には、これまで整備されてきた社会資本によって、日本全国の広域ネットワークを駆使して被災地の支援が行われました。このような経験を踏まえ、今後、適切な社会資本整備・管理が出来なくなった場合に、将来の生活がどのように変化するかということを考える必要があります。

研究目標

**社会資本の潜在的な役割と効果を
はかる化・見える化**

本研究では、国民が持続可能な国土の中で生活していくために、社会資本の整備・管理が、生活の様々な場面(社会・経済・生活)にもたらしている潜在的な役割と効果を分かりやすく“はかる化”・“見える化”することを目標とし、以下の研究に取り組みます。また、研究を進める際には、i)社会資本と国民生活の関係、ii)社会資本と経済活動の関係、iii)社会資本と防災との関係をターゲットとして取り組みます。

- ・社会資本の潜在的な役割
- ・持続可能な社会・経済・生活を支えるための指標
- ・分かりやすい表現方法

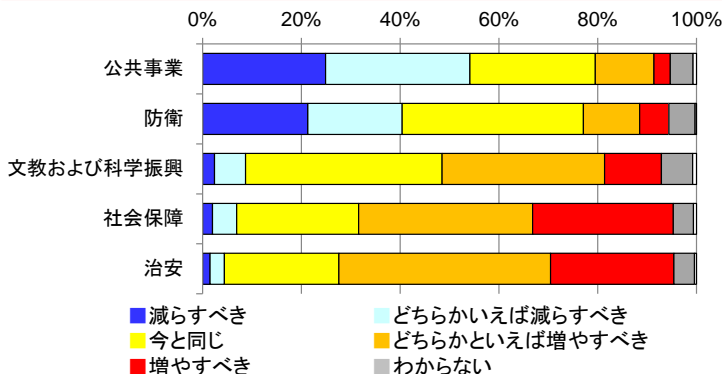
研究成果の活用

「持続可能な国土へのはかる化・見える化集」を作成

公共事業等による社会資本整備・管理が、社会・経済・生活にもたらす潜在的な効果を対象としたデータ集・計測手法・表現方法等からなる「持続可能な国土へのはかる化・見える化集」を作成します。

これにより、社会資本整備(維持)における効率的な整備目標の検討に寄与や満足度の高い合意形成に寄与することが期待されます。

政府支出の増減に対する国民の考え



出典)独立行政法人経済産業研究所「公共支出の受益と国民負担に関する意識調査と計量分析」、2006年 より作成

研究構成

